

<p><b>1 学校教育目標</b></p> <p><b>校訓</b> 至誠一貫・進取向上・自治協同</p> <p><b>教育目標</b> 「文武一徳」の人づくり 知性を磨き体を鍛え、徳の備わった、社会のリーダーたる人材の育成</p> <p><b>&lt;スクール・ミッション&gt;</b> 計画的・効果的なキャリア教育を推進するとともに、実践的・体験的な教育活動や、地域・社会と連携・協働した教育活動等を通して、知・徳・体の調和がとれ、チャレンジ精神を備えた、地域・社会の活性化に主体的に貢献できる人材を育成する。</p> <p><b>育てたい生徒像</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>高い志と使命感をもった、社会に貢献できる生徒</li> <li>心身を鍛え、何事にも積極的にチャレンジできるたくましい生徒</li> <li>互いに協力しながら、主体的に行動できる生徒</li> </ol>
<p><b>2 現状分析</b></p> <p>本校は「『文武一徳』の人づくり」を教育目標に掲げ、全人的発達をめざした教育を伝統的に進めている。学校評価アンケートによると、この教育方針に基づく学校運営は生徒・保護者によく浸透しており、学校に対する高い信頼感が醸成されている。また、地域に対する文化活動・ボランティア活動を精力的に展開していることから、生徒・保護者だけでなく地域においても共感的な理解をいただいている。これは、多くの行事や活動がコロナ禍で制限される中だからこそ、諸活動を実施する方向で探ることが生徒を育てることに繋がるという方針で取り組んだ成果でもありと考える。</p> <p>一方、進学実績については、国公立大学や有名私立大学の合格者の割合はやや増加傾向にあるものの、生徒が幅広い選択の中から大学進学に対応できるよう学力の向上を一層図っていくことが喫緊の課題である。そのために、勉強時間を確保する中で生徒の学力を高め、ICTなどを効果的に取り入れた授業改善など学力伸長のための具体的手立てを学校全体で取り組む必要がある。さらに、大学関係者やOBなどを活用したキャリア教育やオープンキャンパスなどのような外部との連携を図りながら進路意識を高めることを継続していくべきである。</p> <p>また、生徒一人ひとりが抱える学習や学校生活に関する問題に対応した個別の教育相談や指導について、初期対応に重点を置きながら組織的に進めていく必要がある。</p>
<p><b>3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題</b></p> <p>【令和5年度の重点目標】 「生徒の主体性を育み、一人ひとりの夢を実現する豊浦」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>地域から信頼される魅力ある学校づくり</li> <li>生徒一人ひとりの進路実現に向けた学力の向上</li> <li>学校における働き方改革の推進</li> </ol> <p>【令和5年度チャレンジ目標】 「豊浦維新～継承と進化を～」</p>

4 自己評価					7 学校運営協議会		
評価領域	重点目標	具体的方策 (教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	委員からの意見・要望等	分類
教務	授業力の向上	新学習指導要領に対応した授業改善を、研究授業や研修、授業アンケート等を通して促進する。	授業力向上のために、研究授業や、研修に参加した教員が 4: 100%であった。 3: 80%以上であった 2: 60%以上であった 1: 60%未満であった。	3	今年度は、校内での研究授業を、中高連携での取組、県教委の高等学校訪問に合わせて実施し、電子黒板や端末を活用した授業が行われた。生徒の学習者用端末を使用する授業も、調べ学習や教科書のQRコードなどの利用により徐々に増加している。近年ICTの活用が問われることが多いが、生徒の学習効果を慎重に考慮し、必要に応じて使うことが大切であると考えた。	・ICTの校内研修を教科・学年単位で日常的に行い、より一層のICTの活用を試みてほしい。 ・教科「情報」の教育を円滑に進めてほしい。 ・ICT教育の利点と欠点を認識して学生の思考力を高める必要がある。 ・学問の面白さを感じさせ深い学びへ導いてほしい。 ・ICTの活用が生徒の学力向上や教職員の業務改善に繋がることを期待する。	B
生徒	社会性とコミュニケーションスキルの育成	生徒会活動や課外活動を中心に、社会奉仕活動に積極的に取り組み、地域に愛される学校づくりをめざす。その際、校内外での挨拶、地域、教師と生徒及び生徒同士の対話を通じ、コミュニケーションスキルの向上を目指す。	本校主催あるいは地域関係機関主催の社会奉仕活動への参加が 4: 15件以上だった。 3: 10件以上だった。 2: 5件以上だった。 1: ほとんどなかった。	4	生徒会やJRC部を中心に奉仕活動へ取り組んだ。外部では長府地区まちづくり協議会をはじめ地域関係機関と連携し、1月末日現在判明分で15件を超過。長府城下町地域の清掃、下関海響マラソン、下関長府LCとの三軒屋・御舟手海岸、クリスマスコンサート、長府寺子屋、城下町長府マラソン等の文化芸術・スポーツ・清掃等の諸活動に取り組んだ。また、多くの方と交流を深め、生徒のコミュニケーション能力は高まった。	・地域との交流に力を入れていることは大変良い取組である。 ・小中学生との熟議への参加は、子供たちの憧れに繋がると思う。 ・社会奉仕活動の評価基準が参加数だが、参加者数も大切である。 ・数量の多寡よりも生徒の主体的な参加で学びを得たかが重要である。チャレンジしたとか、コミュニケーションが取れたなどの振り返りが必要である。 ・地域関係機関主催の社会奉仕活動は教育課程外の活動で、評価対象とするのは適切でない。 ・長府地区は文化遺産や地域団体にも恵まれ、それらの活用を図り生徒の能力向上に努めてほしい。 ・今後も自転車事故には気を付けてほしい。ヘルメット着用を徹底させてほしい。 ・先生方が生徒指導にも活発に取り組まれている印象である。 ・生徒としっかりと向き合い自己実現を支援してほしい。	A
	交通ルール・マナー順守の徹底	自転車点検を実施する。 交通安全教室を実施する。 登校指導を実施する。 危険通学路箇所指導を実施する。 全体集会における諸注意を実施する。	4: 十分指導ができ、自転車過失事故が5件以内、かつマナーの徹底ができた。 3: 計画どおり指導ができ、自転車過失事故が10件以内、かつマナーがほぼ守られた。 2: 計画どおり指導ができたが、自転車過失事故が10件を超え、かつマナーがあまり守られなかった。 1: あまり指導ができず、自転車過失事故が10件を超え、かつマナーがほとんど守られなかった。	3	例年と同じく、初期指導として新学期に学校周辺の自転車通学路の安全指導を実施した。合わせて自転車点検を行った。毎朝の登校指導、毎学期末の長府地区危険箇所での街頭指導を継続した。1月末日現在、自転車事故は6件（自動車との接触等で1件は本校生徒が加害者）である。7月中旬に交通安全街頭運動、9月末に交通安全教室を開催し、本校通学路をモデルにした実践的なKYT（危険予測・回避学習）を行った。		
	高校生活への適応と心の健康の保持 【教育相談室】	教育相談の立場から、個人の内面の問題や人間関係上の問題に対し、校内外の関係機関と連携して迅速にケース会議を設置する。これを基盤に、問題を抱える生徒とその家庭へ初動重視の組織的支援を行う。	4: 学年団及び校内外の関係機関と連携し、問題を抱える全ての生徒とその家庭を組織的に支援することができた。 3: 学年団及び校内外の関係機関と連携し、問題を抱える生徒とその家庭を組織的に支援することができた。 2: 教育相談室として対応に努めたが、問題を抱える生徒とその家庭への組織的な支援が行われなかった。 1: HR担任が一人で問題を抱え込んで孤立し、問題を抱える生徒とその家庭への組織的な支援が行われなかった。	3	「早期発見・早期対応」を全ての基本方針とし、年2回（3年は進路面談を含めて3回）実施の保護者懇談、毎学期及び随時実施の生徒個人面談、年3回のいじめ・被害調査、昼休みの校内巡視、教職員による毎朝の学年ミーティング、いじめ対策委員会、職員会議、定例・緊急の生徒課会議、教育相談委員会、ケース会議、部顧問会議等により、情報収集と共有・対応に当たった。状況に応じてはSCの面談を行い、また、外部専門機関と連携し、必要な助言を受けた。		

進路指導	学習時間の確保と学習習慣の確立	毎月の学習記録表や年3回の進路希望・学習量調査を通じて、主体的な学習への取組を促す。	<p>家庭での学習習慣が身についたと自覚した生徒が</p> <p>4: 80%以上であった。</p> <p>3: 60%以上であった。</p> <p>2: 40%以上であった。</p> <p>1: 40%未満であった。</p>	3	<p>毎月の学習量調査表により、毎日の学習（学習時間や教科）の取組具合を把握している。毎年のものであるが、1年生の1学期から2学期にかけて学習時間が減少している。部活動に費やす時間が増え、学習時間がうまく確保できていないからだと考えられる。しかしながら、今年度は進路指導課作成の学習記録表だけでなく、各担任においてもオリジナルの記録表を作成し生徒の指導に活用しており、少しずつであるが生徒の意識も改善してきた。学習時間は、2年生では微増し、3年生ではかなり増加している。増加は高学年になることや受験生としての自覚が芽生えているものと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路目標を早くに作れるよう指導してほしい。</li> <li>・様々なキャリア教育を進路意識向上に繋げることが重要である。</li> <li>・「武」の計画と「文」の計画を同じスケジュールに主体的に書き込むとよい。教員の価値観の押し付けでなく、スケジュールを確認しつつ困難さを共有して応援することが必要である。</li> <li>・「文」と「武」の重みづけは、生徒の特性や希望を踏まえてある程度幅をもたせて良い。</li> <li>・部活動をしていない生徒の家庭学習時間をいかに増やすか。</li> <li>・家庭学習の量だけでなく、授業への集中度・理解度も指標にしては？</li> <li>・部活動の活躍を生かした進路を強化しても良い。</li> <li>・学習量が少ない点が最も気になる。主体的な学びのため視野を広げる教育も必要。大学連携や色々な分野の人の講演会も必要。教員が教育を研究することが必要。</li> <li>・進学率の数値目標を立て、具体的にどうすべきか考えることが必要。</li> <li>・メディアコントロールの実態把握する必要。</li> <li>・家庭学習の充実に向けて、メディアコントロールも含め、さらなる改善策をとるとよい。</li> <li>・進路情報過多になってはいけないが、学校から生徒保護者への多くの情報提示は大変有益である。</li> </ul>	B
	進路情報の提供の充実	進路ニュースを定期的に発行すること、進路講演会やキャリアセミナーを開催することで、進路に関する情報を生徒・保護者に提供し、進学意識の啓発を促す。	<p>学校評価アンケートの「情報提供が進路決定に役立っている」項目で肯定的評価が</p> <p>4: 80%以上であった。</p> <p>3: 60%以上であった。</p> <p>2: 40%以上であった。</p> <p>1: 40%未満であった。</p>	4	<p>進路ニュースは定期的に、タイムリーに発行できていると考える。大学入試に関する情報や校内での進路行事などを紹介し、進学意識の向上を図りたいと考えている。しかし、生徒が隔々まで読んでいかどうかや実際に保護者の手に渡っているかどうかは不明であるため、学校HPやタブレットのクラスルームなどを利用して、一層の発信をしていきたい。</p> <p>各学年生徒を対象とする進路講演会を開催し、保護者を対象とする保護者進路講演会も開催した。最新の大学入試情報が提供できたので、参加者からは好評であった。1年生対象のキャリアセミナーでは本校OBの方3名に講演をしていただき、進路意識が高まった。これを日々の学習への取組につなげていきたい。</p>		
総務	情報提供の充実	ホームページやマチコミメール等を十分に活用して、積極的な学校情報の発信に努める。	<p>学校評価アンケートの「学校情報発信に関する」項目で肯定的評価が</p> <p>4: 80%以上であった。</p> <p>3: 60%以上であった。</p> <p>2: 40%以上であった。</p> <p>1: 40%未満であった。</p>	4	<p>ホームページやマチコミメールは、よりきめ細かく情報発信ができるように、スピード感をもって取り組んでいるところである。マチコミメール登録もほぼ完了し、臨時休校等の緊急時にも迅速に対応できるようにした。ホームページは、保護者や同窓生、今後本校受験を考えている中学生にも興味をもてる内容となるよう、その構成と発信のスピード感に気を配って行きたい。学校アンケートは12月に実施したが、全体的には肯定的な意見が保護者も生徒ともに多かった。</p>	A	
	図書室利用の促進	生徒・教職員のニーズに応じた蔵書を整え、特に生徒については、読書習慣の定着を図り、本の貸出の増加に努める。	<p>今年度、本校図書館で本を借りた者が全校生徒の</p> <p>4: 50%以上であった。</p> <p>3: 40%以上であった。</p> <p>2: 30%以上であった。</p> <p>1: 20%以上であった。</p>	4	<p>学校図書館の役割（1学習センター、2情報センター、3読書センター）を教員に周知し、選書方針も、それらがバランスよく反映されるように工夫した。生徒の読書離れを防ぐべく、まずは図書室への来室、貸出率の増加を図るため、図書新聞の発行や読書会開催（図書委員会、クラス）を通じて本校図書室の魅力アピールすることに努めた。全校生徒50%に貸出をするという目標には到達したが、読書の楽しさに気づかせ、習慣化を図るとともに、図書室をより利用しやすいものにすることが今後の課題である。</p>		
保健体育	体力の向上	スポーツテストの総合判定においてA判定が1年生15%以上2年生25%以上3年生35%以上をめざし授業の充実を図る。	<p>4: 3学年とも目標以上であった。</p> <p>3: 2学年において目標以上であった。</p> <p>2: 1学年において目標以上であった。</p> <p>1: 全学年とも目標に達していない。</p>	3	<p>1年生がわずかに目標に届かなかったものの、他の2学年においては概ね目標を達成することができた。また、学年が進行するにつれA判定の人数も多くなってきている。これは、授業時における基礎トレーニングや運動部活動の高い加入率とその要因となっていると思われる。今後も高いレベルを維持しつつ、健康や安全面での意識向上を図り、生涯にわたって健康寿命が延びていくよう指導していく。</p>	A	
	学校安全の徹底	①手洗い、うがい、換気等をおこない、感染症防止に努める。 ②体育的行事において体育用キャップの着用や水分補給を十分に行い熱中症対策に取り組む。 ③自分の健康状態（メンタル含む）の把握に努める。	<p>年度末アンケートを実施し、「手洗い、うがい、換気等をおこない感染症防止に努めた」、「体育的行事においてキャップ着用や水分補給を行い熱中症対策に努めた」、「自分の健康状態を把握するための具体的な活動ができた」の3項目について、各項目ごとに「できた」、「ややできた」の回答合計数の割合Aを算出し、割合Aが70%以上の項目数により、以下のように評価する。</p> <p>4: 80%以上であった。</p> <p>3: 60%以上であった。</p> <p>2: 40%以上であった。</p> <p>1: 40%未満であった。</p>	4	<p>新型コロナウイルス感染症が5月から第5類に移行されたとしても、ウイルスそのものが消滅した訳ではないため、引き続き感染症対策には万全を期して臨んでいきたい。またインフルエンザのように既存の感染症対策も含め手洗い、うがい等の具体的な取組や意識の啓発を行っていく必要がある。熱中症対策については行事における運営方法の見直しを図りながら効果的に行うことができた。アンケート調査結果についても約9割の生徒が健康に関する関心ももち、能動的な取組ができていたように思う。しかしながらメンタルに関する課題は山積しており、心技体が整った健康状態が維持できるよう指導していきたいと考えている。</p>		

1年	進路実現のための基礎作り	<p>①基本的な生活習慣を確立させるため、掃除の徹底や整理整頓を呼び掛け、かつ学習習慣の定着を図るため、週末課題を定期的に出し、学年集会、学年だより等を通し、生活、学習、進路に関する情報発信、指導を行う。</p> <p>②学校行事、HR活動、授業、部活動等を通じて、主体的、計画的な行動を身につけさせる。</p> <p>③挨拶、会話等を通じ、コミュニケーション能力を育てる。</p> <p>④担任や教科担当、部活動顧問との連携を密にする。「報告・連絡・相談」を徹底させる。</p>	<p>年度末アンケートを実施し、「基本的な生活習慣が確立できた」、「学習時間を平日2時間、休日4時間、確保できた」、「主体的に活動できた」、「計画的に活動できた」、「コミュニケーション能力が高まった」の5項目について、各項目ごとに「できた」、「ややできた」の回答合計数の割合Aを算出し、割合Aが70%以上の項目数により、以下のように評価する。</p> <p>4: 4項目以上であった。</p> <p>3: 3項目であった。</p> <p>2: 2項目であった。</p> <p>1: 1項目以下であった。</p>	<p>1月に振り返りアンケートを実施した結果、各項目に対する割合Aの値は次のようであった。(回答率91.79%)</p> <p>「基本的な生活習慣が確立できた」: 76.0%  「学習時間を平日2時間、休日4時間確保できた」: 26.4%、  「主体的に活動できた」: 73.1%、  「計画的に活動できた」: 54.7%、  「コミュニケーション能力が高まった」: 72.2%</p> <p>5項目中3項目が70%以上であり、達成度は3であると判断する。</p> <p>豊浦高校生として自覚が身に付いてきており、基本的な生活習慣の確立やコミュニケーション能力の向上などへの意識も高まっている。最大の課題である学習習慣の確立については、自由記述欄を見ると、ほとんどの生徒がもっと学習量を増やす必要性を強く感じており、日々の課題の設定など、学習に向かわせる工夫を施し、根気強く生徒に接していくことが大事である。</p>	<p>・将来の目標を立てられるよう様々な経験を積ませてほしい。</p> <p>・回答率が92%で、未回答生徒が気になる。</p> <p>・社会生活の中で必要なコミュニケーション能力の育成に、より一層力を入れてほしい。</p> <p>・学校評価アンケートの文武両道に係る間で、肯定的でない意見の割合が多い。要因や状況などの分析、対策が異なった視点から学習に取り組む姿勢の改善に繋がる。</p> <p>・結局自分のためであることを理解させるのが難しい。</p>	B												
2年	将来を見据えた明確な進路目標を持ち、実現に向けて取り組める生徒の育成	<p>①学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に授業へ参加し、予習・復習を徹底する(予習→授業→復習のサイクルの確立)。</li> <li>・定期考査や模擬試験のやり直しを徹底する。</li> <li>・朝学等で小テストを実施し、基礎学力の定着を図る。</li> </ul> <p>②明確な進路目標の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LHRや探究活動等において、生徒一人ひとりが自らの将来に向き合い、進路目標を設定できるようにする。</li> </ul> <p>③基本的な生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「時を守り、場を清め、礼を正す」といった意識をもつとともに、他人を思いやる気持ちやコミュニケーション能力の育成を図る。</li> </ul>	<p>年度末アンケートにて、「将来を見据えた明確な進路目標を持ち、実現に向けて取り組むことができた」と回答した生徒が</p> <p>4: 75%以上であった。</p> <p>3: 50%以上75%未満であった。</p> <p>2: 25%以上50%未満であった。</p> <p>1: 25%未満であった。</p>	<p>以下の項目(重点目標と①～③)について、生徒の自己評価(4:できた 3:だいたいできた 2:あまりできなかった 1:できなかった)を実施した。</p> <p>&lt;項目&gt;</p> <p>重点目標「将来を見据えた明確な進路目標を持ち、実現に向けて取り組む」</p> <p>① 学習習慣の確立について(3つ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 予習・復習の徹底 68.5%</li> <li>(イ) 定期考査や模試のやり直し 61.1%</li> <li>(ウ) 朝学の徹底(基礎学力の向上) 95.2%</li> </ul> <p>② 進路目標の設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③ 基本的な生活習慣の確立について 97.2%</li> </ul> <p>&lt;結果&gt;</p> <p>評価4、3と回答した生徒の割合は、</p> <table border="1"> <tr> <td>重点目標</td> <td>74.0%</td> </tr> <tr> <td>①(ア) 予習・復習の徹底</td> <td>68.5%</td> </tr> <tr> <td>①(イ) 定期考査や模試のやり直し</td> <td>61.1%</td> </tr> <tr> <td>①(ウ) 朝学の徹底(基礎学力の向上)</td> <td>95.2%</td> </tr> <tr> <td>② 進路目標の設定</td> <td>90.3%</td> </tr> <tr> <td>③ 基本的な生活習慣の確立</td> <td>97.2%</td> </tr> </table> <p>したがって、達成度「3」と判断した。</p> <p>①の学習習慣が確立できていない生徒が多い。生徒の振り返りにも「学習時間(学年+2時間)の確保が必要」や「基礎基本の定着が必要」という記述が多くみられた。今後も継続して「学習時間の確保」や「基礎基本の定着」を徹底させたい。</p>	重点目標	74.0%	①(ア) 予習・復習の徹底	68.5%	①(イ) 定期考査や模試のやり直し	61.1%	①(ウ) 朝学の徹底(基礎学力の向上)	95.2%	② 進路目標の設定	90.3%	③ 基本的な生活習慣の確立	97.2%	<p>・変化の激しい時代に将来の目標(職業)を定めるのは生徒も難しいと思うが、生徒がやりたいと感じていることを保護者とともに見つけて欲しい。</p> <p>・明確な目標をもたせることで、中だるみを防止してほしい。</p> <p>・学校評価アンケートの文武両道に係る間で、肯定的でない意見の割合が多い。要因や状況などの分析、対策が異なった視点から学習に取り組む姿勢の改善に繋がる。</p> <p>・結局自分のためであることを理解させるのが難しい。</p>	A
重点目標	74.0%																	
①(ア) 予習・復習の徹底	68.5%																	
①(イ) 定期考査や模試のやり直し	61.1%																	
①(ウ) 朝学の徹底(基礎学力の向上)	95.2%																	
② 進路目標の設定	90.3%																	
③ 基本的な生活習慣の確立	97.2%																	
3年	未来を描き、幸せに生きるための力の育成	<p>①基本的な生活・学習習慣の確立(欠席・遅刻をしない、時間厳守、掃除の徹底、提出物期限厳守)</p> <p>②明確な進路意識と凡事徹底</p> <p>③集団における主体的な活動の充実</p> <p>④挨拶の励行と思いやりのあるコミュニケーション能力の育成</p> <p>⑤豊浦高校の良き伝統の継承</p>	<p>年度末アンケートにて、「家庭学習をよく行っている」、「部活動や諸活動に積極的に取り組み、充実した学校生活を送っている」、「豊浦高校に進学してよかった」と回答した生徒が</p> <p>4: 75%以上であった。</p> <p>3: 50%以上75%未満であった。</p> <p>2: 25%以上50%未満であった。</p> <p>1: 25%未満であった。</p>	<p>『学校評価アンケート』の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭学習をよく行っている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>そう思う 100 (65%)</li> <li>ややそう思う 52 (34%)</li> <li>あまり思わない 3 (2%)</li> </ul> </li> <li>●部活動や諸活動に積極的に取り組み、充実した学校生活を送っている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>そう思う 91 (59%)</li> <li>ややそう思う 48 (31%)</li> <li>あまり思わない 15 (10%)</li> </ul> </li> <li>●豊浦高校へ進学してよかったと思う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>そう思う 91 (59%)</li> <li>ややそう思う 48 (31%)</li> <li>あまり思わない 15 (10%)</li> </ul> </li> </ul> <p>全てにおいて「そう思う」と答えた生徒は60%前後。悩み苦しみがながらも、校風である「文武両道」を実践しようとする姿勢が見られた。</p>	<p>・豊浦高校に進学して良かったと思っていない生徒(16名)は少ないと感じるが、その理由を分析してほしい。勉強や部活での挫折感、敗北感などがあれば、何らかの助言ができると思う。</p> <p>・貴校進学を肯定的回答の生徒が9割であることは誇らしいことだが、残り1割の生徒のフォローも必要。</p> <p>・学校評価アンケートの文武両道に係る間で、肯定的でない意見の割合が多い。要因や状況などの分析、対策が異なった視点から学習に取り組む姿勢の改善に繋がる。</p> <p>・結局自分のためであることを理解させるのが難しい。</p>	A												
地域連携	地域に期待される信頼される学校づくりの推進	<p>地域社会や関係機関と連携した教育活動を充実させる。</p>	<p>教育活動を実施した回数が</p> <p>4: 15回以上であった。</p> <p>3: 10回以上であった。</p> <p>2: 5回以上であった。</p> <p>1: 5回未満であった。</p>	<p>長府中学校・豊浦小学校との熟議への参加をはじめ、下関市、長府まちづくり協議会、長府体育協会、長府ライオンズクラブなど地域の団体と連携し、各種行事・ボランティア活動に参加した。5月から新型コロナが第5類となり、ほぼ以前の状況で実施することができた。また、卒業生による1年生対象のキャリアセミナー、2年生対象の大学等との連携による学校説明会を実施した。これらの活動は、生徒にとって大きな学びとなっている。</p>	<p>・地域コミュニティの一員としてしっかりと協働してほしい。</p> <p>・地域の小中学校や地元の各種団体との交流は、生徒の視野を広げる意味で重要な取組である。</p> <p>・地域へのボランティア活動は大変活発で、今後も地域へのボランティア協力をお願いしたい。</p> <p>・動員でなく、生徒有志の参加を評価し、参加者を増やしてほしい。</p> <p>・豊浦高校には、在校時も卒業後も地域の諸活動に関わり、地域に信頼される歴史がある。今後も縦と横のつながりを大事にして欲しい。</p> <p>・問題点についても率直に議論されることも必要かと思う。</p> <p>・高校時代に地域連携の経験を積み、地域の担い手となる人材を育成してほしい。</p> <p>・ボランティア活動に限らず地域の行事等への参加だけでなく、地域の活気や安心感の醸成に十分貢献する。</p>	A												

事務	安全安心な教育環境整備	施設設備の危険・不具合箇所について、早期に対応する。	危険・不具合箇所の発見及び連絡を受けて、 4: 1週間以内に改修した。 3: 2週間以内に改修した。 2: 1か月以内に改修した。 1: 不十分で早期に補修できなかった。	4	危険・不具合箇所の様態に応じて以下のとおり対応し、事故の未然防止等に努めた。また定期的な校内巡視を行った。 ①校務技士等職員で修繕可能な箇所は、直ちに対応 ②特殊、専門性を有する箇所は選定業者と調整のうえ早急に改善等を実施した。 ③修繕金額の大きい案件については、県に早急な改善を要望している。なお今年度については、グラウンドの防球ネットの改修が行われた。	A
		予算の効率的な執行により、最大限の効果を上げる。	事務計画に参加し、目的に沿った予算運営の達成率が、 4: 90%以上であった。 3: 80%以上であった。 2: 70%以上であった。 1: 70%未満であった。	4	教員と事務職員で連携を図りながら、県の行財政改革の方針に基づき、効率的かつ効果的に予算執行に努めた。 また、県に別途で要望できるものについては予算措置をしてもらうなどし、予算を有効的に運営することができた。	
業務改善	業務時間の短縮	会議時間の短縮、最終退校時間の相互啓発、部活動の週一日休養日実施、年次有給休暇の積極的取得等を推進するなかでタイムマネジメント力を上げ、業務改善を図る。	業務時間の短縮率が前年度比の 4: 25%以上であった。 3: 15%以上であった。 2: 5%以上であった。 1: 5%未満であった。	3	4月から12月までの時間外在校等時間は、昨年度64.03時間、今年度は52.03時間であり、昨年比約19%減であった。45時間以上の時間外在校等時間の理由は、部活動指導が最も多く、次いで学年・学級の業務、教材研究である。部活動指導については、複数体制であるが、協議の専門性や中国大会・全国大会への出場もあり、負担が大きくなっている。一方、平日の業務や長期休業などでは積極的に休暇取得する教職員も見られ、時間外在校等時間の減少に繋がっていると考えられる。	B
	教職員の健康管理	健康診断結果に基づいた健康管理を行い、面談等の機会を使いながら意識改革を行い受診率の向上を図る。	再検査者の受診率が 4: 100%であった。 3: 80%以上であった。 2: 60%以上であった。 1: 60%未満であった。	4	職員会議等で受診勧奨の意識付けを図り、考査中や長期休業中の受診をお願いし、年度末現在では100%の受診率となった。	

5 学校評価総括（取組の成果と課題）

教務	各教室に配置された電子黒板や教員の指導者用端末は、日常的に使用されている状況である。また、googleのクラスルームを多くの教員が利用しており、課題の出題や、模擬試験に向けての対策等を配信するといった活用がみられる。すべてをICTでというよりは、ICTを利用した方が、より効果的であるとか、効率的であるとかといった場面での利用が進んでいるようである。生徒の学習者用端末については、一部の教科・単元等では活用されているが、通常の授業での使用頻度としては高くない。一斉授業では、個人個人が端末で学習するというよりも、意見や考察を端末を利用して活用して活用するという方法が効果的な活用ではないかと考える。このような活用の仕方を、各教員が取り組んでいければ良いのではないだろうか。生徒の学習者用端末の効果的な活用を図ることが、今後の課題であると考えられる。
生徒	他分掌、家庭及び校外生徒指導機関と連携した組織的・計画的・予防的な指導を実施し、概ね各種問題の解決・解消を図ることができた。交通安全は、早期の登校指導を徹底したが、交通事故は6件と昨年度より2件増となった。自転車運転の法規やマナーについては一部に規範意識の不足している生徒がおり、外部から苦情を数件受けた。交通事故の1件は、よそ見運転による自転車と歩行者との接触であり、加害者側になってしまう事案があった。被害側ばかりではなく、加害側になることをしっかりと意識させたい。KYT学習（交通安全教室等）と生徒主体の安全意識の啓発活動（生徒会活動・探究学習等）を継続する。また、今後も全校集会等で安全意識の向上に努めたい。 コミュニケーションスキルは、新型コロナウイルス感染症も落ち着き、例年どおりの学校活動で育まれたと感じる。学校行事や部活動にボランティア活動参加を組み込む等、地域と連携した生徒主体の自主的・計画的な活動を行った。HR担任や教育相談室による面談（保護者面談も含む）を計画的に実施するとともに、生徒の多面的理解を深めるため、複数の教員やSCによる面談を増やした。これら日常的な生徒観察に加え、毎学期のいじめ・被害等調査により、問題発生時には早期対応・早期解決することができた。生徒は全体的に能動的で落ち着いた学校生活を送っており、安心・安全な学習環境づくりの前提となる生徒指導を推進できた。しかし、不測の事態は常に起こり得るので、引き続き予防的指導体制を整備していきたい。 教育相談活動は、教育相談室長を中心に各学年担当の教育相談係がHR担任や部活動顧問等と連携して推進した。初動対応、中学校と連携した新入生の情報共有やSCの活用、場合によっては医療機関とも連携した取組など、HR担任のサポート役として教育相談室が機能している。新入生の新しい環境への適応力が低下傾向にあり、0年生事業の活用に加え、入学当初のサポートを強化させる必要がある。今後教員の研修や家庭・専門機関・地域関係諸機関との連携を深め、教育相談体制の充実を更に進めたい。 「安全」については、自転車に関する事故・苦情等の交通関係だけでなく、不審者事案や災害関係にも対応するため、安全の三領域（生活・交通・災害）に関する対策を具体化させる。防犯訓練、交通安全教室、災害避難訓練、AED講習等を、警察、消防、その他専門機関等の指導を受けながら、生徒会やHR活動において生徒が主体的に行動できるよう啓発指導を行う。これらを通じて生徒の生活実態に即した危機管理能力（危機回避×危機対応）を具体的に実践的な内容にスキルアップさせる。 「豊かな心の育成」・「教育相談」については、引き続き、校内での情報共有と共通理解、家庭、中学校、専門機関、地域社会との連携を重視する。特に問題の未然防止、早期発見・解決を図る。また、若い世代の教員が増えていることから、生徒指導スキルの継承や、問題を一人で抱え込まずに本校生徒指導の長所である組織的対応力の充実を図る。
進路指導	生徒自身が進路に対して主体的に考え、行動（学習）するように、学校全体の進路意識を高めたい。進路講演会や大学見学、総合的な探究の時間を進路指導と有機的に結合し、より一層の進学意欲の向上を図りたい。教員側の進路意識はかなり向上し、指導のスキルもアップしてきたので、その成果を生徒に還元し成果をあげる取組を企画していきたい。
総務	今年度もホームページについて、より新しい情報を的確に伝えられるように、昨年よりも質の高い内容をよりスピーディーに提供できるように努めた。情報の提供と内容の保護者評価が80パーセント強であったので、保護者や生徒、あるいは本校受験を考えている中学生が何を求めているのかをもう少し吟味していかなければならない。今年度も、学校図書館の3つの役割を明確に提示し、選書方針もバランスよくそれぞれの役割が果たせるようにした。また、それらを踏まえ、生徒・教職員の希望図書を積極的に購入し、常に新しい文庫を提供できるように努めた。同時に、図書委員会を通じて蔵書の貸出率が少いように努力した。近年SNS社会となり、生徒の読書離れが全国的に進んでいる現状でも、まだ改善の余地はあり、本でしか味わえない読書環境を整備する必要があると思われる。
保健体育	体力向上については1年生がわずかに目標を達成できなかったものの、他学年において概ね目標を達成することができている。体育授業や体育的行事、運動部活動の加入率の高さによる成果が出ているものと推測される。さらなる向上に努めていきたい。 学校安全の徹底については手洗い、うがい等による各ウイルスへの感染を防止することを指導してきたため、学年閉鎖等の爆発的な感染事例は起こっていない。また、学校行事や体育授業時における暑熱対策も十分な水分補給や体育用キャップの着用を積極的に指導の継続を行い、熱中症の集団発生が起きないようにしていきたい。さらに、自分自身の健康状態を把握することやメンタル面での対応についても指導を行い、欠席者数の減少に努めていきたい。
1年	コロナ禍で3年間の中学校生活を送った生徒たちが昨年入学し、5月にコロナが5類に移行、さまざまな学校行事を大きな支障なく行うことができるようになった。行事などを通してコミュニケーションを円滑に図ることがあまり得意でない生徒たちは少なからず戸惑ったところもあったようだが、HR活動や面談、授業、学年集会、学年だより、部活動等を通して、生活、学習、進路に関する情報発信、指導を行うことで、基本的な生活習慣をほぼ確立させることができた。また、学校行事や総合的な探究の時間、HR活動、授業、部活動等において、主体的な活動を概ね身につけさせることができた。さらに、挨拶、会話等を通じ、コミュニケーション能力の向上を図り、人間関係を構築するための、いわば「生きる力」を身に付けることができた。 生活習慣の確立に伴い、計画性が少しずつ身に付いてきたが、学習時間を確保が十分に出来ていない生徒が多く見受けられる。授業や長期休業中の課題、朝学や小テストを工夫することで学習習慣の定着を図ってきたが、指導に乗じて計画性をもって自主的に学習する生徒とそうでない生徒の二極化が顕著である。 今後の課題としては、成績上位者への指導と並行して、学習意欲のない生徒の意識改革を働きかけ、さらなる向学心を身に付けさせるべく指導する必要がある。
2年	教育課程が大きく変わる学年であり、大学受験や進路実現に向けてさまざまな取組を行った。週末には「やってみようプロジェクト」として、小論文や数学などの添削指導に取り組んだり、「情報I」が大学入学共通テストの受験科目として増えることから、「情報I」の模擬試験を実施したりした。また、勉強へのモチベーションや思考力の向上、大学受験のノウハウなどについて、西岡啓誠氏による講演会を実施したり、学習意欲の向上に向け、ICTを活用した教育コンテンツの「Classi」を導入したりするなど、さまざまな取組を行った。2学年で行ってきた取組はある程度成果を上げたと考えている。しかしながら、学習時間の確保や学習習慣の定着については、まだまだ足りていないため、今後もよりいっそうきめ細かい指導や声かけが必要である。進路実現のために、何が必要かを考え、行動できるように今後も継続して指導していきたい。
3年	「そう思う」・「ややそう思う」を合算したもので昨年度の『学校評価アンケート』と比較する。 ●「家庭学習をよく行っている」 R5_99%(65%+34%) > R4_81%(32%+49%) ●「部活動や諸活動に積極的に取り組み、充実した学校生活を送っている」 R5_90%(59%+31%) < OR4_94%(71%+23%) ●「豊浦高校に進学してよかった」 R5_90%(59%+31%) ≒ R4_91%(62%+29%) ・「豊浦高校に進学してよかった」と答える生徒は例年90%。学習活動では文武両道を掲げながら、ほぼ全員が熱心に取り組んだ。
地域連携	地域の団体や関係機関との連携で、様々な活動に参加したことで、これらの経験を通して多くの学ぶことができた。今後は、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした活動にも取り組んでいく必要がある。
事務	危険・不具合箇所の早期修繕に努めた結果、施設・設備に起因する事故は発生しなかった。しかしながら、経年劣化する不具合箇所が多数発生していることから限られた予算内で効率的な修繕をしたり、県に要望し予算措置をしてもらう必要がある。

業務  
改善

評価基準として、部活動が盛んな本校においては、時間外業務の削減にも限界がある。一方で自動採点システムの導入やフォームによる出欠管理システム導入の検討などICT活用に  
取り組み、業務改善につなげようとしている。さらに、業務内容の見直しをすることが課題である。また、教員自身が働き方改革を進める意識を高める必要がある。  
また、教職員の健康管理については再検査者数も昨年度より減少し、再検査者の受診率も年度末時点では100%となり意識的に改革されている兆しはある。

6 次年度への改善策	
教務	公開授業や中高連携事業等で、他校（高校に限らず中学校も）への授業研究の機会を積極的に利用して、ICTの活用の現状を学ぶことができるような研修に積極的に取り組んでいきたい。
生徒	来年度からは自転車登校でのヘルメット着用が義務化される。今年度以上に自転車運転のマナーや事故の被害者・加害者にならないように登校指導、警察やその他専門機関と連携し生徒の安全確保に努めたい。今年度は不注意で起こった事故があるので、全校集会などを通じて積極的に呼びかける。 教育相談としては多くの教員、SCと連携を図り、早期対応・早期発見をおこなうことができた。しかし、不登校の生徒や欠席の続く生徒が多くいる。ケース会議などを通じて、生徒一人ひとりの特性を把握し、全教員で情報を共有することも大切であると感じる。 また、コロナ以前と比べ、全校生徒の活気がないように感じる。様々な学校行事が再開され、例年通りの学校活動に戸惑っているように思う。教職員全員で生徒に働きかけ、導いていくことが例年以上に必要なことである。挨拶も教員側から積極的におこない、背中から生徒を引っ張っていく姿が重要である。
進路指導	生徒が入学時から一貫して自己実現に向けた進路選択を意識して学校生活を送ることができるよう、すべての進路行事を有機的に配置したプログラムを再構築していきたい。また各教員の持ち味、強みを生かした指導を工夫することによって、「総合的な探究の時間」が生徒の進路選択に有効に活用できるようにしたい。さらには新教育課程の入試に向けた対応も新たに必要となるが、近隣各校の情報を積極的に取り入れて生徒の現況に即した進路指導を行いたい。
総務	豊高ホームページについては、魅力ある豊浦高校を、豊浦高校に興味をもつ中学生やその保護者、また在校生やその保護者、多くの卒業生に発信できるよう、内容を吟味しながら、さらなる質の向上に努めたい。また、PTA総会は、総会の出席率を少しでも上げられるように、総会が保護者にとって魅力あるものとなるよう、今までのやり方にとらわれず、その内容を模索していきたい。今後も、保護者の希望や改善要求といった生の声に耳を傾けながら、学校からも保護者が本当に欲しい情報を、ホームページやマチコミメールを通じて発信していきたい。
保健体育	体力向上については体育的行事や授業、運動部活動のさらなる充実を図り、多くの生徒が運動に関する興味・関心を持てるようにしていきたい。 健康安全面については感染症対策、暑熱対策を継続実施し、学校生活を安心して送ることができる環境づくりに取り組んでいきたい。また、自分の健康状態を把握しメンタル面も含めて能動的に生活ができるよう指導していきたい。
1年	HR活動や、部活動、様々な学校行事を通して、高校生活にも慣れ、生活習慣が定着していく中で、主体的に活動する力も身につくにつれ、人間関係を構築していくためのコミュニケーション能力も次第に高まっていると思われるが、挨拶や礼儀面での不足点もあり、今後も継続的に声掛けをしていく必要がある。生活習慣の定着に対して学習時間の不足は明白である（平日2時間、休日4時間の学習時間確保の割合が、26.4%）。進路実現に向けて学習量を増やさなければならないということはほとんどの生徒が考えており、一日の生活の中で「学習」をルーティーン化させるような粘り強い働きかけが課題である。
2年	進路実現に向けて、基礎学力の定着とともに受験に対応できるような応用力の習得が必要である。しかしながら、予習・復習の徹底ができていない生徒（31.5%）や定期考査や模試のやり直しできていない生徒（38.9%）が多いのが現状である。学校の授業で習ったことを定着させるためにも「予習→授業→復習のサイクル」を確立することが必要である。さらには、「学年+2時間」の学習時間を確保し、学習習慣を確立させるような取組が必要であると考え、次年度も生徒の進路希望を実現できるように継続してサポートしていきたい。
3年	・インフルエンザは流行しているが、コロナ対策の規制緩和は人間関係構築に大きく貢献するものと考えられる。WEB配信等は便利だが、できる限り対面で話す機会を増やしたい。 ・4月から2月上旬まで毎週1回3学年会を開催（25回程度）し、学年団の共通理解を図った。今年は多くの副担任にも積極的に参加してもらえた。そのため、広い視野で考えることができ、柔軟な対応ができた。時間割を考えると実施困難も予想されるが、副担任も可能な限り参加できるように配慮願いたい。
地域連携	従来の地域や関係機関との連携については、積極的に計画する。加えて、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした活動や、学校全体で地域連携に関わっていく体制づくりの構築が必要である。また、学校と地域・関係機関が相互に関わることができる教育活動を設定し、さらに地域との連携を高めていく。
事務	修繕必要箇所が多発しているため、優先順位、必要性等を勘案し、なお一層の効率的な予算執行を図り、事故防止に努める。要望しているが予算化されていない案件についても積極的に県に連絡を取り予算化していきたい。
業務改善	今年度の各関係分掌で来年度に向け業務の見直し、特にICT活用の推進を図り、精選や効率化を図っていく。業務改善を確実に持続可能なものにするためには、教職員一人ひとりの「納得」が必要であり、教職員自身の意識の向上を図り、実現のために職場環境を整えていく。 教職員の健康管理については、再検査自体の減少のための勧奨をし、再検査の受診率も100%とする。